

2026 年 8 月 10 日

日揮ホールディングス株式会社

2026 年度第 1 四半期決算に係るオンラインカンファレンス（説明会）における質疑応答（2026 年 8 月 7 日開催）

※オンラインカンファレンス開催日（2026 年 8 月 7 日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2026 年度第 1 四半期の業績および 2026 年度通期の業績見通しについて

質問	回答
2026 年度第 1 四半期の粗利益率実績（12.8%）が、2026 年度通期業績見通しの粗利益率予想（10.9%）と比較して、1.9%ポイント上振れているが、その要因について教えてほしい。 また、中東情勢悪化の影響を踏まえた遂行中プロジェクトの予算の見直しが、第 1 四半期の粗利益実績（203 億円）に与えた影響についても教えてほしい。	2026 年度通期業績見通しに対して、2026 年度第 1 四半期の粗利益率実績の上振れ分 1.9%は金額にすると約 30 億円となる。この要因は主に次の 2 点である。 1 点目は為替（円安）影響である。2026 年度通期業績予想では想定為替レートを 1 米ドル＝150 円と設定していたが、第 1 四半期末（6 月末）の為替レート実績は 1 米ドル＝162 円 39 銭と、全般的に円安方向で推移したことにより、約 15 億円のプラス影響が生じた。 2 点目は総合エンジニアリング事業の遂行中プロジェクトでの採算改善によって、約 15 億円のプラス影響が生じた。依然として苦戦中の遂行中プロジェクトがありながらも、工事終盤におけるリスク低減に伴う採算改善や、過年度に完工したプロジェクトで見込んでいた費用が不要となったことがプラス要因となった。 また、中東情勢悪化による影響については、2025 年度末に予算の見直しを行い、追加費用による粗利益への下押し影響を織り込んだが、当四半期においてもプロジェクト遂行状況を踏まえた予算見直しを行った結果、全体と

	して粗利益への影響は限定的であった。 結果として、第 1 四半期の粗利益率実績は、通期業績予想を上回る水準で着地することができた。
2025 年度通期業績実績において、中東情勢悪化による影響のリスク対応費用の負担を考慮し、粗利益で約 70 億円の費用を計上していた。2026 年度第 1 四半期における総合エンジニアリング事業での遂行中プロジェクトの採算改善は、この見込んでいたリスク対応費用の一部が発現しなかったことによるリスク対応費用の戻りと理解して良いか。	2026 年度第 1 四半期における総合エンジニアリング事業での採算改善は、主として遂行中プロジェクトの進捗に伴う採算見直し等によるものであり、2025 年度末に計上したリスク対応費用の戻りではない。
機能材製造事業について、2026 年度第 1 四半期業績のセグメント利益進捗率が 36%と好調に見受けられるが、当第 1 四半期連結業績における利益上振れの要因の一つと考えて良いか。	機能材製造事業の利益進捗の高さも、第 1 四半期業績の利益上振れに一定程度寄与しているが、連結業績への影響は限定的である。 機能材製造事業では、2026 年度通期業績見通しを作成した時点において、中東情勢悪化に起因する原材料の調達リスク等を考慮して、一定程度の減収減益を見込んでいた。しかし第 1 四半期末時点ではこうした影響は顕在化していない。引き続き動向を注視していく。
当第 1 四半期における各利益項目の通期業績予想に対する進捗率（粗利益：28%、営業利益：31%、経常利益：46%）は順調であるが、現段階で通期業績見通しを据え置いた要因は何か。足元で認識しているリスク要因があれば併せて教えてほしい。	通期業績予想に対して、当第 1 四半期は順調なスタートを切ることができたと評価している。 一方で、通期業績予想における想定為替レートは 1 米ドル=150 円としており、当第 1 四半期に計上した為替差益については、今後為替レートが想定した水準で収束した場合、通期では為替差損となる想定である。 また粗利益段階についても、未だ第 1 四半期段階であり、遂行中プロジェクトの採算改善によって一定の利益の上振れは見られるものの、中東情勢をはじめとした事業環境の不透明感は依然として残っている。このため、現

	時点では通期業績見通しを変更する状況にはないと考えている。
--	-------------------------------

2. 受注・マーケット環境について

質問	回答
SAF (Sustainable Aviation Fuel:持続可能な航空燃料) について、官民協議会において、航空会社による利用拡大を含めた制度設計が検討されるとともに、足元では供給事業者に対する SAF 供給義務の導入に向けた議論が進展していると理解している。 こうした制度整備の進展を踏まえ、2026 年度受注期待案件として挙げている SAF 製造プラント EPC プロジェクトについて、顧客による最終投資決定 (FID) の実現可能性や確度は高まっていると考えているか。	当社グループの 2026 年度受注目標においては、国内の受注期待案件として SAF 製造プラントの EPC プロジェクトの受注を期待している。また、一部の SAF プロジェクトでは、既に FEED (基本設計) 役務を遂行している。 ご指摘のとおり、SAF の利用拡大に向けた制度整備の進展は、顧客による設備投資計画の具体化や最終投資決定 (FID) の後押しにつながる。当社グループとしても、こうした政策面での進展を追い風に、SAF 製造プラントの EPC プロジェクトの具体化が進み、年度内の受注につながることを期待している。

3. 遂行中プロジェクトの状況について

質問	回答
アラブ首長国連邦 (UAE) で遂行中の LNG プラント建設プロジェクトについて、2025 年度通期決算発表時点 (2026 年 5 月 14 日) では、プロジェクトの進捗は序盤であり、機器の調達 (発注・製作) 段階であるとの説明があった。ホルムズ海峡が封鎖されている状況が続いているが、同プロジェクト	アラブ首長国連邦 (UAE) で遂行中の LNG プラント建設プロジェクトの進捗状況は、前回決算発表時点から大きく変わっておらず、現時点ではホルムズ海峡封鎖等による機器輸送への大きな影響は生じていない。ホルムズ海峡封鎖等の影響が長期化した場合に備え、ホルムズ海峡を経由しない代替輸送ルートを活用も含めた対応策を検討している。

において、現在機器の輸送にどのような影響が出ているか教えてほしい。 また、ホルムズ海峡封鎖等の影響がいつ頃までに解消されれば、本プロジェクトへの影響を回避できると考えているのか。	ホルムズ海峡封鎖がいつまでに解消されれば本プロジェクトへの影響を回避できるかについては、現時点では具体的にお示しできる状況にはない。
---	---

4. キャッシュアロケーションについて

水 ing 株式会社の株式譲渡（譲渡価額：25,608 百万円）が 2026 年 7 月 1 日に完了し、キャッシュインがあったと理解している。新中期経営計画では成長投資を含めたキャッシュアロケーション方針を示しているが、現時点で M&A 等の大型投資が具体化している状況ではないと推察している。今回のキャッシュインを踏まえてキャッシュアロケーションの考え方や、成長投資と株主還元のバランスについて変化があれば教えてほしい。	当社グループのキャッシュアロケーションについては、新中期経営計画で お示ししている方針に基づき、単年度ではなく 5 年間の中期経営計画期間（2026 年度～2030 年度）全体を見据えて策定している。今回水 ing 株式会社の株式譲渡に伴うキャッシュインはあったものの、現時点でキャッシュアロケーションの考え方に大きな変更はない。現在 M&A を含めた成長投資の検討が進んでいる状況であり、今回のキャッシュインを受けて今直ぐにアロケーションの見直しや追加的な株主還元を実施することは想定していない。
---	--

以 上